

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 ナガエツルノゲイトウ連絡会（2026年2月10日）

いなみ野ため池ミュージアム運営協議会の「ナガエツルノゲイトウ連絡会」に参加。この問題に取り組む東播磨3市2町のため池協議会の関係者に対し、兵庫県特定外来生物対策本部東播磨地域部会から県のこれまでの取組と今後の予定を説明し、専門家も交えて意見交換を行った。

【日時】2026年2月10日（火）10:00～12:10

【場所】稲美町いきがい創造センター2階ホール

【参加者】

- ・いなみ野ため池ミュージアム運営協議会17名
（東播磨地域のため池協議会の代表者、東播磨3市2町の担当者）
- ・専門家2名（エコロジー研究所 丸井英幹氏、自然回復 三根佳奈子氏）
- ・兵庫県特定外来生物対策本部東播磨地域部会4名
- ・いなみ野ため池ミュージアム運営協議会事務局4名（計27名）

【内容】

- 1) 東播磨地域の発生状況説明（丸井氏、三根氏より）
- 2) 各地区の状況報告（東播磨3市2町担当者より）
- 3) 県からの情報提供（東播磨地域部会（ナガエツルノゲイトウ対策チーム）より）
- 4) 意見交換



【ため池協議会の関係者からの主な意見】

- ・対策は数年がかりだ。R9年度以降も安定した予算確保が必要。
- ・住民の理解が不足している。地元関係者向けの研修も行ってほしい。
- ・通報へのインセンティブ付与には反対。逆効果になるおそれがある。
- ・海に流れて海岸に漂着して広がる可能性がある。拡散防止の観点からは最終取水施設まででなく、河口まで防除すべきではないか。
- ・上下流を考えながら、区間を区切って計画的に対策を行うべきだ。
- ・ナガエツルノゲイトウの見分け方が難しく、確認に時間がかかる。
- ・重機を使った抜き取りや、専門家がない抜き取りは拡散の元になるので注意が必要だ。
- ・少数の専門家頼みでなく、専門家を増やして体制を強化すべき。
- ・行政間の情報共有を地域部会で徹底してもらいたい。
- ・今回のように地域に対しての情報共有が重要だ。
- ・今回専門家から示された区間ごとの根絶の予想に勇気づけられた。この情報を関係者に共有し、対策に活かしてもらいたい。